

演題抄録作成要領（見本）

※入力内容はそのまま抄録に掲載されます。誤字・脱字がないか十分ご確認ください。

介護老人保健施設における認知症の△ △
△ △ △ △ △

家族の思いに〇〇〇〇

老年美子1), 老若次郎1), 老看花子2), 看護一郎3)

1)〇〇大学, 2)〇〇病院,
3)大学大学院〇〇研究科〇〇専攻博士前期課程

[illegible]

演題抄録の登録画面

①演題名

- ・全角 40 字以内
- ・半角の英数字は、2文字で全角 1 文字として換算。

演題抄録の登録画面

②サブタイトル

- ・全角 30 字以内
- ・半角の英数字は、2文字で全角1文字として換算。
- ・サブタイトルに、「～」「ー」等の記号は不要。

基本事項の登録画面

③筆頭発表者名
共同研究者名

- ・筆頭発表者を先頭とし、抄録に掲載する全員の氏名を記入。
- ・氏名は、苗字と名前の間にスペースをいれない。
- ・10 名以内(全体で60字以内)。
- ・氏名の後ろに、片括弧の番号を全角で入力。例:老年美子1)
- ・氏名と氏名の間は、「,」で区切る。

基本事項の登録

④筆頭発表者
共同研究者の
所属先名称

- ・大学名, 病院名・施設名のみ入力。学部学科, 部署等は不要。
但し大学院生については研究科, 課程まで入力。
- ・肩書, 職種, 役職は, 入力不要。
- ・全体で 75 字以内。
- ・所属先の前に, 片括弧の番号を全角で入力。例:1)〇〇大学
- ・所属先と所属先の間は,「,」で区切る。

演題抄録の登録画面

⑤抄録本文

- ・文字数は、スペース・改行なしで最大1,000字。
- ・図表・写真は、掲載不可。
- ・研究報告の構成
【研究目的】【研究方法】【倫理的配慮】【結果】【考察】
- ・実践報告の構成
【目的】【取り組みの概要】【倫理的配慮】【結果】【考察】
- ・事例報告の構成
【目的】【事例の概要】【倫理的配慮】【結果】【考察】
- ・構成のタイトルは【 】を使用。
- ・文献を引用した場合、引用元を記載する。

構成毎の
改行不要
(←見本参照)

演題抄録の登録

演題抄録の内容を以下に入力してください。	
1) 演題名の入力	① 演題名 ● 全角40字以内でご入力ください。半角英数字は2字で全角1字と換算。 * 既定文字数を超過して入力した場合エラーになりますのでご注意ください。
2) サブタイトルの入力	② サブタイトル ● サブタイトルが空の場合は、全角30字以内でご入力ください。 ● 半角英数字は2字で全角1字と換算。サブタイトルの前後に「—」「～」をつけてもよいものとしますが、必ずしもつける必要はありません。 * 既定文字数を超過して入力した場合エラーになりますのでご注意ください。
	③ 抄録本文 [注] * 文字数：改行なしで最大1,000文字（図表・写真：掲載不可） * 文献を引用した場合は、引用元を抄録に掲載してください。 * 指定の文字数を越えた抄録は、受け付けることができません。 * 抄録の種類：研究報告の場合は「研究目的」「研究方法」「倫理的配慮」「結果」「考察」、実証報告の場合は「目的」「事例の概要（または取り組みの概要）」「倫理的配慮」「結果」「考察」を含む内容で作成してください。 * 抄録には、倫理的配慮がなされた抄録であることを必ず記載してください。 上付き文字が必要なときは、文字の前後に<SUP></SUP>で囲ってください。 (例) Na<SUP>a</SUP> は "Na^a" となります。 下付き文字が必要なときは、文字の後後に<SUB></SUB>で囲ってください。 (例) H<SUB>2</SUB>O は "H₂O" となります。 文字数の目安：0文字 表示される文字数は目安となります。レイアウト上、改めて修正をお願いをする場合がありますので、ご注意ください。

日本老年看護学会第31回学術集会 演題抄録『研究報告』作成の留意点

【全体】

- 研究の意義
 - ・ 老年看護学の発展に寄与し、老年看護の実践・管理・教育等に貢献する内容であること。
- 表現・用語の適切さ
 - ・ 当事者の立場で読んだときに不快感を与えない表現を用いる。蔑視的な言葉や使役動詞（～させる）に注意する。
 - ・ 略語は初出時に正式名称を併記する。
 - ・ 自施設特有の用語は避け、一般的に理解される用語を使用する。
 - ・ 専門用語は正確に使用する。
 - ・ 固有名詞（人名、病院名、自治体名等）は原則記載せず匿名化する。「当院」「当病棟」も使用しない。
- 用語の統一
 - ・ 人数の単位（○人/○名）、年の表記（西暦/年号）等は統一して用いる。
 - ・ 抄録全体で表記の揺れがないか、用語が統一されているかを必ず確認する。
- 文献の引用
 - ・ 抄録内での文献引用は必須ではない。
 - ・ 特定の理論、枠組み、方法を示す場合に限り引用可。
 - ・ 引用する場合、出典を抄録内に明記する。
- 助成金等の支援
 - ・ 助成金や外部支援を受けた場合は、抄録末尾に明記する。
- ルールの遵守
 - ・ 文字数、執筆者・共同研究者の氏名・所属先、抄録の構成等、演題登録要領を遵守する。
 - ・ 誤字、脱字がないよう、提出前に繰り返し確認する。

【演題名】

- ・ キーワードを含み、内容の概要が一文で伝わるものとする。
- ・ 疑問形や語り口調の表現は避ける。

【サブタイトル】

- ・ 必要に応じて用いる。
- ・ 演題名が長い場合や、研究条件・対象等を補足したい場合のみ使用する。

【研究目的】

- ・ 研究で何を明らかにしたいのか、目的を明確かつ簡潔に述べる。
- ・ この研究の必要性や意義が理解できるように記述する。

【研究方法】

- ・ 研究デザイン、対象、データ収集方法、分析方法を明記する。
- ・ 対象については、研究方法に応じた表現（対象者、参加者、協力者等）を用いる。

【倫理的配慮】

- ・ 所属機関等の倫理審査委員会の承認を得ている旨と承認番号を記載し、主な倫理的配慮内容を述べる。
- ・ 利益相反（COI）がある場合は、その内容を併記する。

【結果】

- ・ 抄録内容の中心となる部分であり、十分な説明を行う。
- ・ 最初に対象の概要を示した後、分析した結果を客観的に記述する。
- ・ 数値を含む場合は、計算の誤りや記述の齟齬がないかを確認する。
- ・ 質的分析によりカテゴリー等を表記する場合、【 】を使用しない。

【考察】

- ・ 結果に基づいて論理的に考察を述べる。
- ・ 文献の引用は必要な場合に限る。

日本老年看護学会第31回学術集会 演題抄録『実践報告』作成の留意点

【全体】

- 研究の意義
 - ・ 老年看護に関連する実践（看護実践、看護管理実践、教育実践等）と、その結果として得られた成果を報告する。
 - ・ 実践（取り組み）が抄録内容の中心となること。
- 表現・用語の適切さ
 - ・ 当事者の立場で読んだときに不快感を与えない表現を用いる。蔑視的な言葉や使役動詞（～させる）に注意する。
 - ・ 略語は初出時に正式名称を併記する。
 - ・ 自施設特有の用語は避け、一般的に理解される用語を使用する。
 - ・ 専門用語は正確に使用する。
 - ・ 固有名詞（人名、病院名、自治体名等）は原則記載せず匿名化する。「当院」「当病棟」も使用しない。
- 用語の統一
 - ・ 人数の単位（○人/○名）、年の表記（西暦/年号）等は統一して用いる。
 - ・ 抄録全体で表記の揺れがないか、用語が統一されているかを必ず確認する。
- 文献の引用
 - ・ 抄録内での文献引用は必須ではない。
 - ・ 特定の理論、枠組み、方法を示す場合に限り引用可。
 - ・ 引用する場合、出典を抄録内に明記する。
- 助成金等の支援
 - ・ 助成金や外部支援を受けた場合は、抄録末尾に明記する。
- ルールの遵守
 - ・ 文字数、執筆者・共同研究者の氏名・所属先、抄録の構成等、演題登録要領を遵守する。
 - ・ 誤字、脱字がないよう、提出前に繰り返し確認する。

【演題名】

- ・ キーワードを含み、内容の概要が一文で伝わるものとする。
- ・ 疑問形や語り口調の表現は避ける。

【サブタイトル】

- ・ 必要に応じて用いる。
- ・ 演題名が長い場合や、研究条件・対象等を補足したい場合のみ使用する。

【目的】

- ・ 取り組みを実施した理由と目的を明確に述べる。
- ・ 何を目指したのか（改善しなかった課題）を具体的に示す。

【取り組みの概要】

- ・取り組みの内容を中心に、十分な説明を行う。
- ・取り組みの具体が読み手にわかるように、実践の対象、実践の内容・期間、実践を行った場の特徴（地域、組織・施設の機能、ケアの提供体制等）、実践に関わった人（専門看護師、認定看護師、看護師、他職種、人数、役割等）等を説明する。
- ・取り組みの結果を評価するために調査（インタビュー、アンケート等）を行った場合は、研究報告と同様に調査の対象や調査方法を明記する。

【倫理的配慮】

- ・管理者（施設長等）から、発表の承諾を得ている旨を明記する。
- ・取り組みに関わった全員から発表に関する同意を得ていることを述べる。
- ・特に、高齢者や家族等の非専門職が含まれる場合、事前説明により同意を得ていることが必要。
- ・所属機関等の倫理審査が必要でない場合もあるが、審査・承認を受けている場合はその旨と承認番号を記載する。
- ・利益相反（COI）がある場合は、その内容を併記する。

【結果】

- ・取り組みの結果、どのような変化（事実）があったかを客観的に記述する。
- ・抄録内容の中心となる部分であり、十分な説明を行う。
- ・評価指標を用いた場合は、主要な結果（前後比較の数値、対象者の満足度等）を具体的に記載する。

【考察】

- ・結果に基づき、取り組みの成果や意義、今後の実践への示唆等を論理的に述べる。
- ・文献の引用は必要な場合に限る。

日本老年看護学会第31回学術集会 演題抄録『事例報告』作成の留意点

【全体】

- 研究の意義
 - ・ 事例（高齢者個人、高齢者の家族、高齢者と家族等）の経過と看護実践内容を中心に、今後の実践の発展に向けた示唆や考察を報告すること。
- 表現・用語の適切さ
 - ・ 当事者の立場で読んだときに不快感を与えない表現を用いる。蔑視的な言葉や使役動詞（～させる）に注意する。
 - ・ 略語は初出時に正式名称を併記する。
 - ・ 自施設特有の用語は避け、一般的に理解される用語を使用する。
 - ・ 専門用語は正確に使用する。
 - ・ 固有名詞（人名、病院名、自治体名等）は原則記載せず匿名化する。「当院」「当病棟」も使用しない。
- 用語の統一
 - ・ 人数の単位（○人/○名）、年の表記（西暦/年号）等は統一して用いる。
 - ・ 抄録全体で表記の揺れがないか、用語が統一されているかを必ず確認する。
- 文献の引用
 - ・ 抄録内での文献引用は必須ではない。
 - ・ 特定の理論、枠組み、方法を示す場合に限り引用可。
 - ・ 引用する場合、出典を抄録内に明記する。
- 助成金等の支援
 - ・ 助成金や外部支援を受けた場合は、抄録末尾に明記する。
- ルールの遵守
 - ・ 文字数、執筆者・共同研究者の氏名・所属先、抄録の構成等、演題登録要領を遵守する。
 - ・ 誤字、脱字がないよう、提出前に繰り返し確認する。

【演題名】

- ・ キーワードを含み、内容の概要が一文で伝わるものとする。
- ・ 疑問形や語り口調の表現は避ける。

【サブタイトル】

- ・ 必要に応じて用いる。
- ・ 演題名が長い場合や、研究条件・対象等を補足したい場合のみ使用する。

【目的】

- ・ 事例を報告する目的（なぜこの事例を報告するのか、何を検討したいのか）を明確に述べる。

【事例の概要】

- ・ 事例の概要を簡潔に示す。
- ・ 年齢と性別は必ず記載する（例：A氏（〇歳代後半、男性））。
- ・ 特別な介入を行っている場合は、その内容をここに含める。

【倫理的配慮】

- ・ 管理者（施設長等）から発表の承諾を得ている旨を明記する。
- ・ 事例本人（必要に応じて代諾者）から発表に関する同意を得ていることを述べる。
- ・ 特別な介入を行っている場合は、事例の同意を得ていることを明記する。
- ・ 所属機関等の倫理審査が必要でない場合もあるが、審査・承認を受けている場合はその旨と承認番号を記載する。
- ・ 利益相反（COI）がある場合は、その内容を併記する。

【結果】

- ・ 抄録内容の中心となる部分であり、十分な説明を行う。
- ・ 看護の実際とその結果を客観的に記述する。
- ・ 記述方法の例として、「時間経過にそって述べる」、「介入内容別に整理して述べる」、「看護場面ごとに整理して述べる」等がある。適宜、項目を立て、看護の実際とその結果を具体的に示す。
- ・ 複数者でかかわっている場合、介入者が誰か（専門看護師、認定看護師、看護師、他職種等）がわかるように記載する。
- ・ 主観的な表現は抑え、客観的データや事実（言動や表情等）を優先して記載する。

【考察】

- ・ 結果に基づき、目的に照らして論理的に考察を述べる。
- ・ 文献の引用は必要な場合に限る。